



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	パーソナルファイナンス：大人になって役立つお金の知識（総合学習「テーマ研究」）( fulltext )
Author(s)	石本,貞衡
Citation	研究紀要：東京学芸大学附属世田谷中学校研究年報, 2015: 205-206
Issue Date	2016-03-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2309/147664">http://hdl.handle.net/2309/147664</a>
Publisher	東京学芸大学附属世田谷中学校
Rights	

### 3. 4 パーソナルファイナンス ～大人になって役立つお金の知識～

1. 対象学年 2・3年

2. 担当教員 石本貞衡（社会科）

#### 3. テーマのねらい

私とお金の関係性を学ぶ学習はこれまでの学校教育では十分行われてこなかったため、日本では金融経済に関する知識が不足していると言われている。

この実態を受け、本テーマ研究では以下のような4つのテーマのねらいを設定した。

- ① お金とのつきあい方を学び、ライフプランを考えられるだけの基礎的な力をつける。
- ② 株式投資を行い、実際に投資活動を体験してみる。
- ③ 学んだことをまとめ、レポートにする（原稿用紙3枚1200字以上必須）。
- ④ 各自で、毎回の学びを蓄積して自分の人生の財産にする。

株式学習ゲームは、「3～4人のチームごとに、仮想所持金（1,000万円）を原資とし、東京証券取引所市場第一部の銘柄のうち300銘柄を中心に、どの銘柄を売買するのか議論しながら、実際の株価（終値）に基づいて株式の模擬売買を行う」学習プログラムである。このプログラムを行うことで、経済に関する関心や分析力の高まりが期待できる。なお、今年度は3年生10名、2年生12名の計22名で開講した。

#### 4. 講座の内容

##### （1）概要

まず、ねらいの1つ目にもある通り、本講座で目指したのはライフプランの中で、資金管理の方法を学び、実践するということにある。したがって、ただ株式学習ゲームに取り組むのではなく、ライフプラン形成の中で、どのように資産形成を行い、その中の選択肢として株式投資があることやそのリスクマネジメントの方法について学ぶ時間を設けた。具体的には1学期は株式学習ゲームをより充実させるために資産形成の方法について学ぶことを中心に、2学期は1学期の実践内容も踏まえ、ライフプランを考えることを中心に展開した。

次に、株式学習ゲームに関して、今年度は前述の資産形成の中で「一つのかごに卵を盛るな」という経済の格言を学び、これを念頭に置いた分散投資を行わせるように心がけた。中学生の段階では分散投資の観点を突き詰めることは難しいと予想されたため、投資額を設定した時に「同じ会社に全額投資はしないこと」や「同じような要因があったときに同じような値動きをしないと考えられるもの」など、具体的な指示をして投資先を決めるようにさせている。投資自体の回数は6回であった。

その他、見学関係として、1学期に東京証券取引所の見学と株式投資の実践プログラム（ブルサ）の受講を行った。これまでの実践から2年生の生徒が半数を占める本講座では、早い段階で生徒が何をどのように解釈することが株式投資には必要かを知識面、技能面で学ぶことができる学習を入れる必要があるからである。また、2学期には「日本銀行の見学に行きたい」という生徒からの要望が出たことを受けて、貨幣博物館及び日本銀行の見学を行っている。

(2) 授業日程：今年度は、オリエンテーションや予備日も含め、計12回実施された。

回数	主な学習予定
5/1	オリエンテーション／お金を貯める・増やす方法を知る 他
6/5	【前半】リスクとリターンの関係を学ぶ【後半】株式取引①
6/12	東証見学
6/19	【前半】分散投資について学ぶ【後半】株式取引②
7/8	株式取引③
9/4	貨幣博物館及び日本銀行本店見学
9/11	株式取引④
9/18	株式取引⑤
10/23	株式取引⑥（最終）
11/5	まとめ作文作成
11/6	テーマ研究発表会
12/1	テーマ研究まとめ・自己評価



6/12 東証見学の様子

## 5. 学習の成果

昨年度の課題として、中学生段階においてどのような株式投資をさせることが学びにつながるかという点があり、投資に関する基準をより明確化し、自分たちの投資がどのくらい評価できるものかを検証できるような学習を構築することを目指した。その点で、今年度はライフプランの考え方を早い段階で確認・共有し、資産管理を行う重要性を認識させた上で株式投資を考えさせるカリキュラム構成に切り替えた。この点は、預貯金と株式投資の関係性について理解することを促し、どちらに偏りすぎてもよいポートフォリオにならないことや、1000万円の余剰資金を使える「状況設定」の意味が共有できた点で、今年度の方がよかったと思われる。また、ドル・コスト平均法の考え方も取り入れたことで同じ株式を購入する場合でも買う時期、売る時期を分けて考えるグループが増えたので、この作業にも意味があったのではないかと考えている。以下、生徒の感想を載せる。

- 株は常に変動し続けるものなので、1つの企業に集中して投資するのではなく、分散させて(異なる業種に)投資し、安定した利益を得るものだということ。…お金を使って株を買い、その株が変動し続けるさまはまるで競馬のようであったが、株はけってギャンブルにしてはいけないということ。株はギャンブルじゃない。(2年男子)
- 身近なニュースが株を扱うのに大切で、結果から判断して投資するのではなく、結果がこうなると予想して投資しなければいけないところに株式の難しさがあり、面白さがあるのだと感じました。(2年女子)
- 株式投資の方法やしぐみについてもそうだが、一番大きかったのはお金に対する考え方が変わったこと。お金に対してどう接するかが学べた。(3年男子)
- 株式投資の基礎である、分散投資の大切さを身に染みて感じる事ができた。(3年男子)
- 将来、株取引をすることになったら、今回のテーマ研で学んだことは全て役に立つと思う。また、株の取り引きを行わなくても、会社にとっては国際情勢の変化に目を向けることが大切であることを学んだため、ニュースや新聞を見る、読む必要があるという考えも役に立つと思う。(3年女子)
- お金も普通のものと同じように流れがあるということがよくわかりました。自分のためにお金を消費したり、貯めたりすることが結果的に社会の流通の一部になっていることが新鮮で、見方が広がりました。これからは自分の都合だけではなく、社会の動きも考えたお金の管理や使い方をしていきたいと思いました。(3年女子)
- 現金でお金を持っているだけでは損をしてしまうことがあるということを知り、その上で株式投資は1つの重要な資産運用であることを強く実感した。だから、将来は少額からでもよいので、株式投資を絶対に行っていきたいと思った。そのとき「分散投資」は将来役に立つと思う。(3年女子)

## 6. 学習の課題

今年度は学習内容については一定の効果を出すことができた。今回は意識的に生徒に毎回の取引のポートフォリオを作成させ、前回の振り返りに力を入れさせたことが大きいと考えている。どのように限られかつ断続的な取り組みになりがちなテーマ研究という枠組みの中で継続した取り組みの一環としての意識を持たせ、取り組ませるかという点が今後の課題となってくると思われる。